

2 男女平等意識について

1-1 男女の地位の平等感

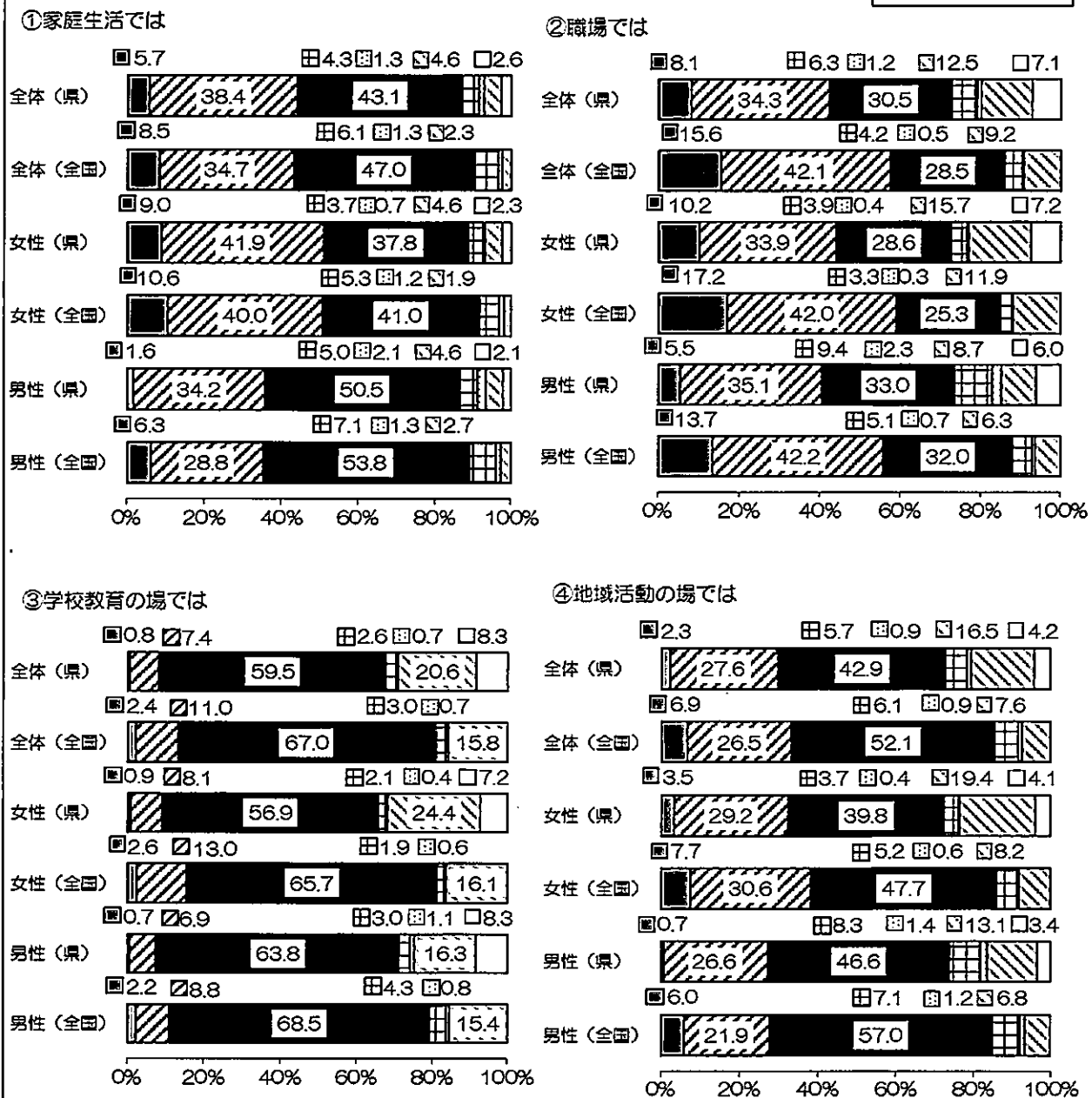
問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(①～⑧の項目それぞれについて、1つだけに○印)

ポイント

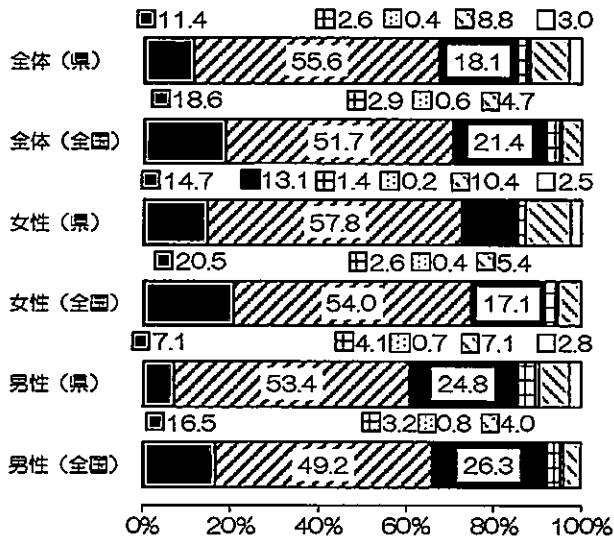
- 本県及び全国ともに「⑤社会通念・慣習・しきたりなど」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』と感じている傾向が強い。
- 全ての分野で『男性優遇』と感じているのは女性の方が割合は高く、「平等である」と感じているのは男性の方が割合は高い。

図1-1-1 男女の地位の平等感

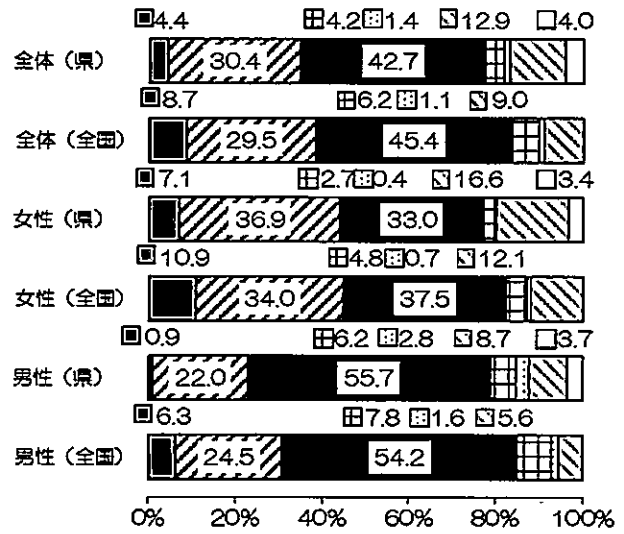
全体：1,021件
女性：566件
男性：436件



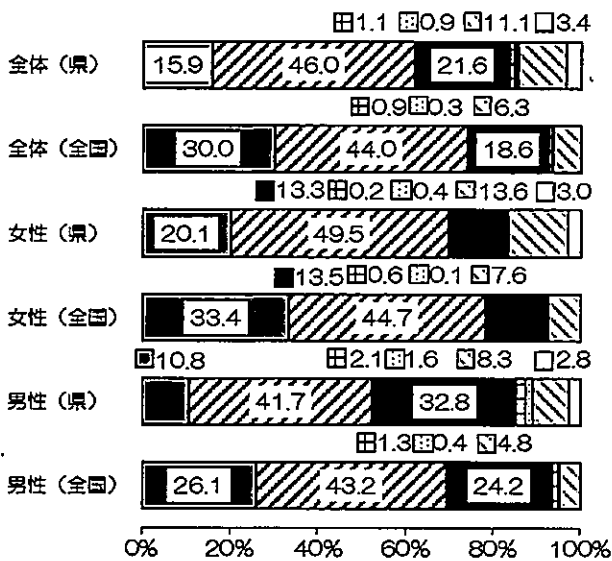
⑤社会通念・慣習・しきたりなどでは



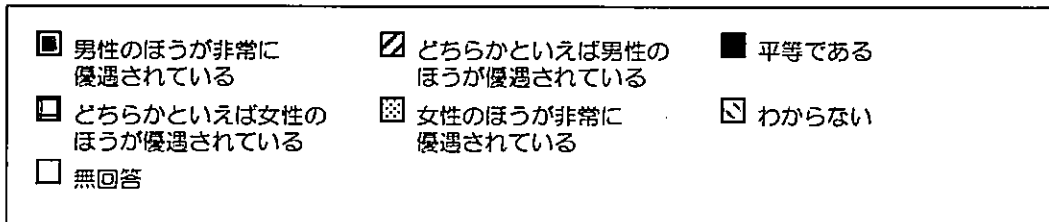
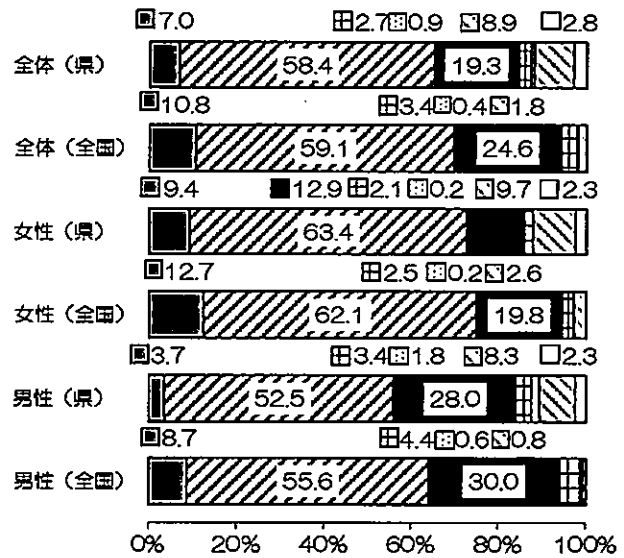
⑥法律や制度のうえでは



⑦政治の場では



⑧社会全体では



(資料：総務省「社会生活基本調査」H23年)

県における男女の地位の平等感について、前回調査と比較すると、全体で「平等である」が「①家庭生活」「②職場」「⑤社会通念・慣習・しきたり」で増加している。また、同時にこの3分野は『男性優遇』（「男性のほうに非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」を合わせたもの）も、前回調査数値より減少している。性別に見ると、「①家庭生活」では、特に女性が、「平等である」と答えた割合が32.2%から37.8%に増加しており、『男性優遇』と答えた割合が56.2%から50.9%に減少している。「②職場」では、『男性優遇』と答えた女性が、49.1%から44.1%に減少し、男性も43.7%から40.6%に減少している。「⑤社会通念・慣習・しきたり」では、女性は前回調査の傾向とほとんど変わらないが、男性は『男性優遇』が63.8%から60.5%に減少している。

「③学校教育の場」では、全体で前回調査の61.5%から59.5%に減少はしているものの、半数以上が「平等である」と回答しており、8分野のなかで、最も平等感が強い。

「④地域活動の場」では、全体で「平等である」は前回調査と変わらず4割強で、性別に見ると、女性は「平等である」が増えるとともに、『男性優遇』が38.0%から32.7%に減少し、男性は、「平等である」が54.9%から46.6%に減少し、『男性優遇』が19.0%から27.3%に増加している。

「⑥法律や制度」では、全体で「平等である」が45.9%から42.7%に減少し、『男性優遇』は、29.4%から34.8%に増加している。性別に見ても男女ともに「平等である」が減少し、『男性優遇』が増加している。

「⑦政治の場」では、全体で「平等である」が29.5%から21.6%に減少し、『男性優遇』が53.3%から61.9%に増加している。性別に見ても男女ともに「平等である」が減少し、『男性優遇』が増加している。

「⑧社会全体」では、全体で「平等である」が21.5%から19.3%に減少し、『男性優遇』が61.4%から65.4%に増加している。性別に見ても男女ともに「平等である」が減少し、『男性優遇』は増加し、『女性優遇』は減少している。

全国調査と比較すると、「平等である」の割合は、相対的に和歌山県の方が低いが、一方『男性優遇』は、「①家庭生活」を除くすべての分野で、和歌山県の方が低くなっている。

和歌山県は、すべての分野で「わからない」が全国調査よりも多く、特に女性にその傾向が強い。(図1-1-1)

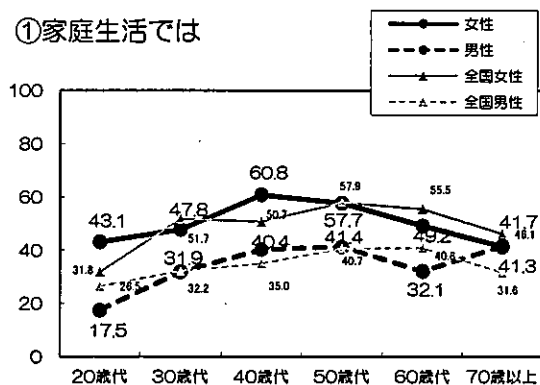
図1-1-2 性年齢別 男女の地位の平等感

【『男性優遇』と感じている人の割合】

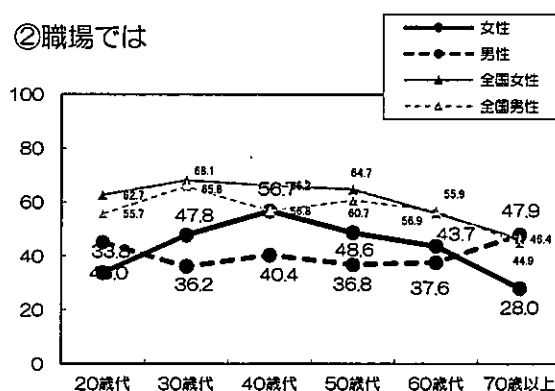
ポイント

- 「家庭生活」では、男女ともに30歳代から40歳代にかけて『男性優遇』と感じる割合が増加している。
- 男女ともに、ほとんどの項目で、40歳代及び50歳代が他の年代よりも『男性優遇』と感じている割合が高い。

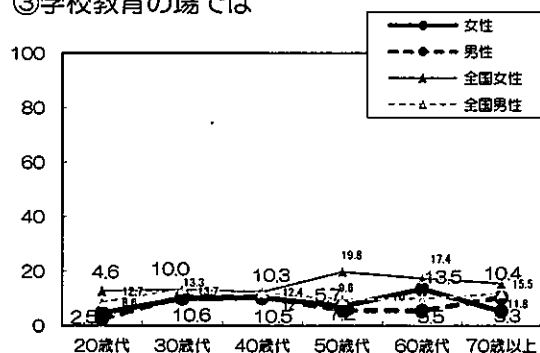
①家庭生活では



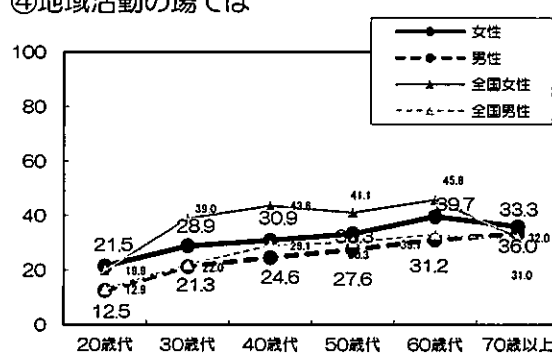
②職場では



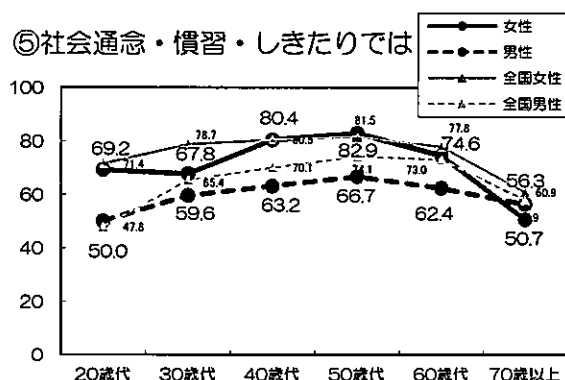
③学校教育の場では



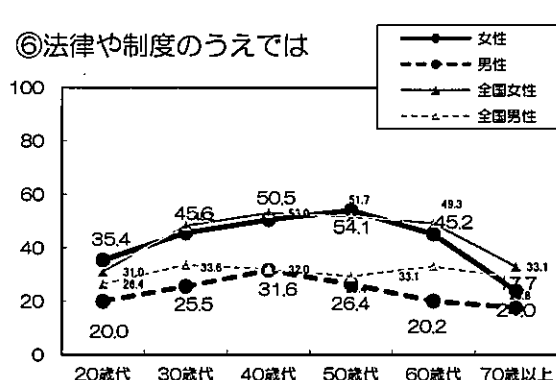
④地域活動の場では

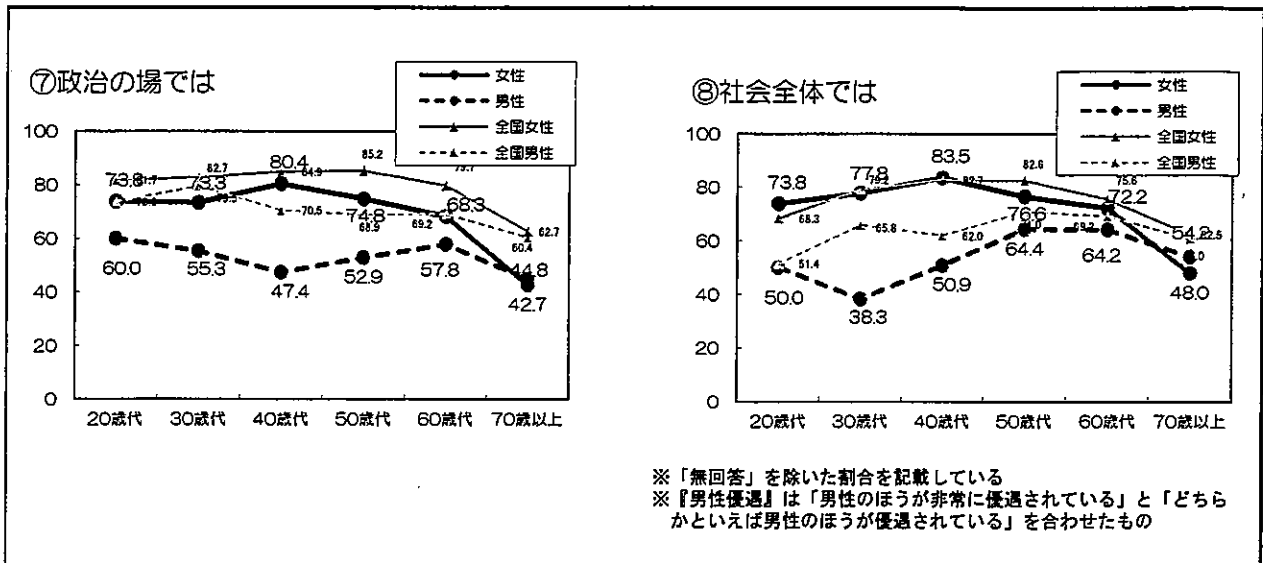


⑤社会通念・慣習・しきたりでは



⑥法律や制度のうえでは





『男性優遇である』の割合について、性年齢別にみると、女性では、「①家庭生活」、「②職場」、「⑤社会通念・慣習・しきたり」、「⑥法律や制度」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」については40～50歳代で高く、他の年代を上回っている。

男女ともに、多くの項目で、40～50歳代が他の年代よりも『男性優遇』と感じている割合が高くなっている。男性では、「②職場」については20歳代で10.2ポイント、70歳以上では19.9ポイントと、男性が女性を上回っている。

年齢別に男女間の差が大きい項目をみると、「⑥法律や制度」については、70歳以上を除くいずれの年代においても女性と男性の差は15ポイント以上となっている。逆に、「③学校教育の場」、「④地域活動の場」では、全ての年代において女性と男性の差は10ポイント未満となっている。「⑦政治の場」では40歳代、「⑧社会全体」では30歳代及び40歳代で30ポイント以上の差となっている。(図1-1-2)

全国と比較すると、「②職場」、「④地域活動の場」、「⑦政治の場」において『男性優遇』と感じている人が、男女ともに少ない。特に男性は、「①家庭生活」を除けば、全国より『男性優遇』と感じている人が少ない傾向にある。

図1-1-3 前回調査比較 男女の地位の平等

ポイント

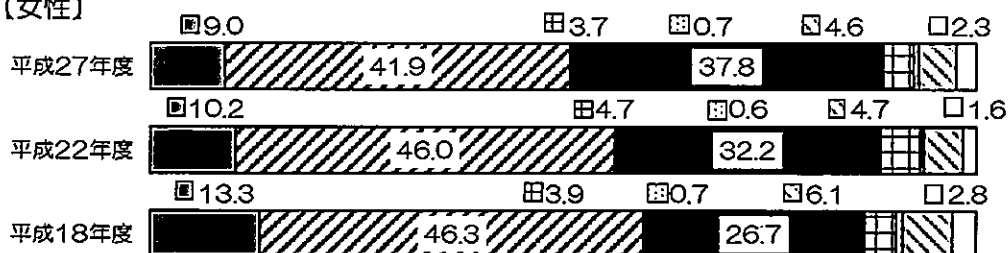
○男女ともに、「法律や制度」、「政治の場」、「社会全体」において『男性優遇』の割合は増加している。
○女性では「家庭生活」、「職場」での平等感が高くなっている。

女性：今回566件 前回704件 前々回667件

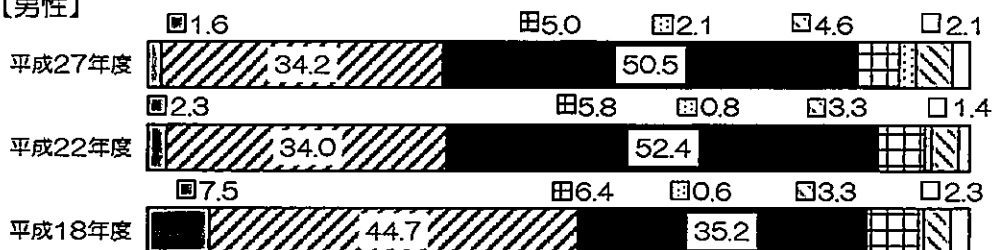
男性：今回436件 前回517件 前々回517件

①家庭生活

【女性】

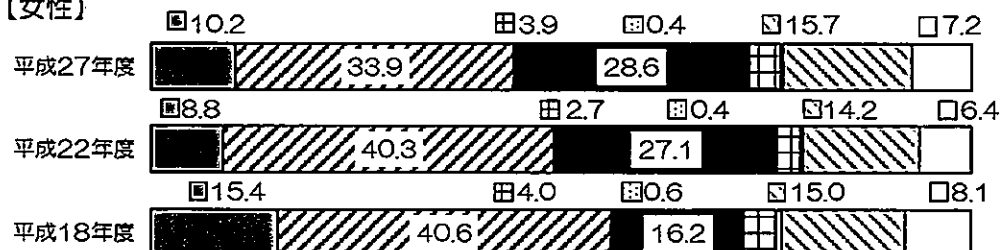


【男性】

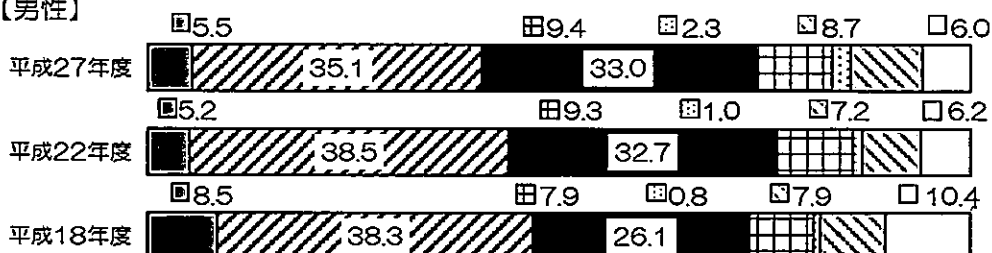


②職場

【女性】

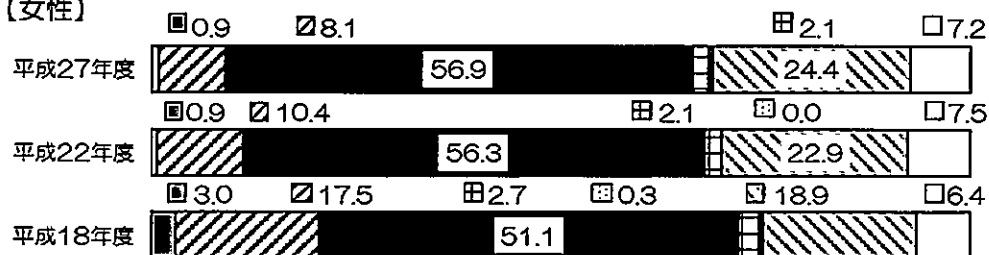


【男性】

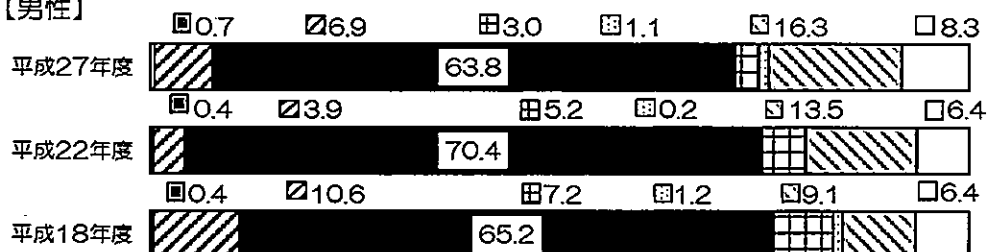


③学校教育の場

【女性】

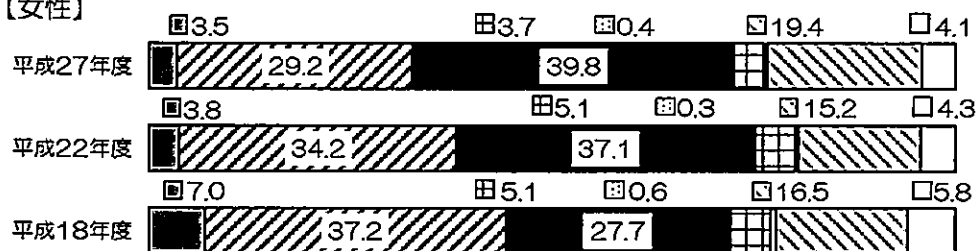


【男性】

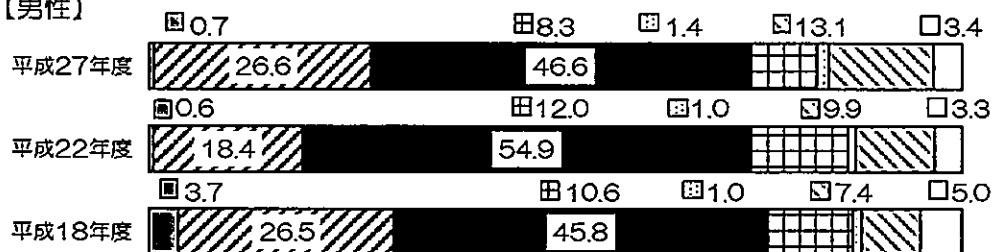


④地域活動の場

【女性】

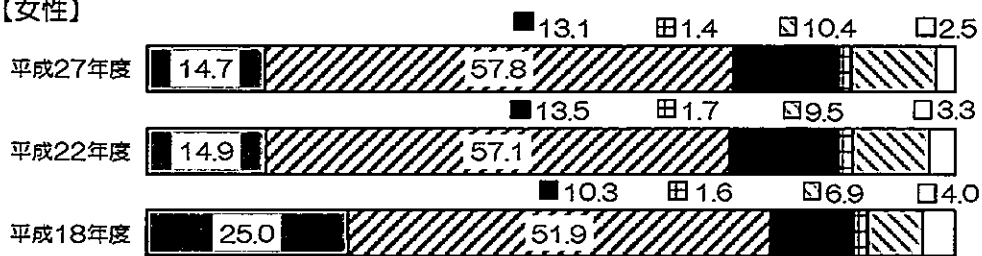


【男性】

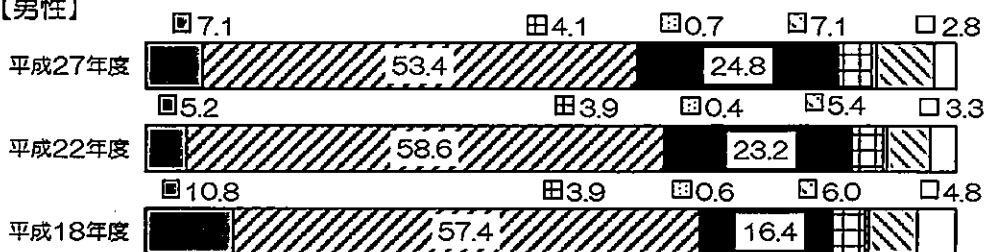


⑤社会通念・慣習・しきたりなど

【女性】

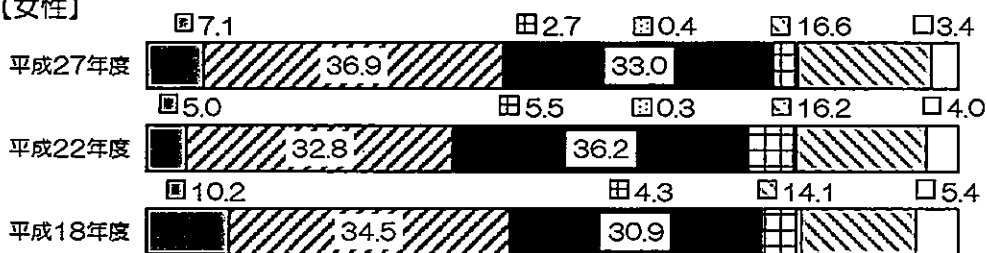


【男性】

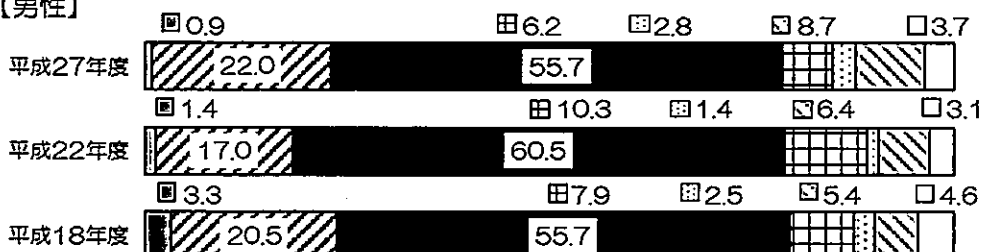


⑥法律や制度

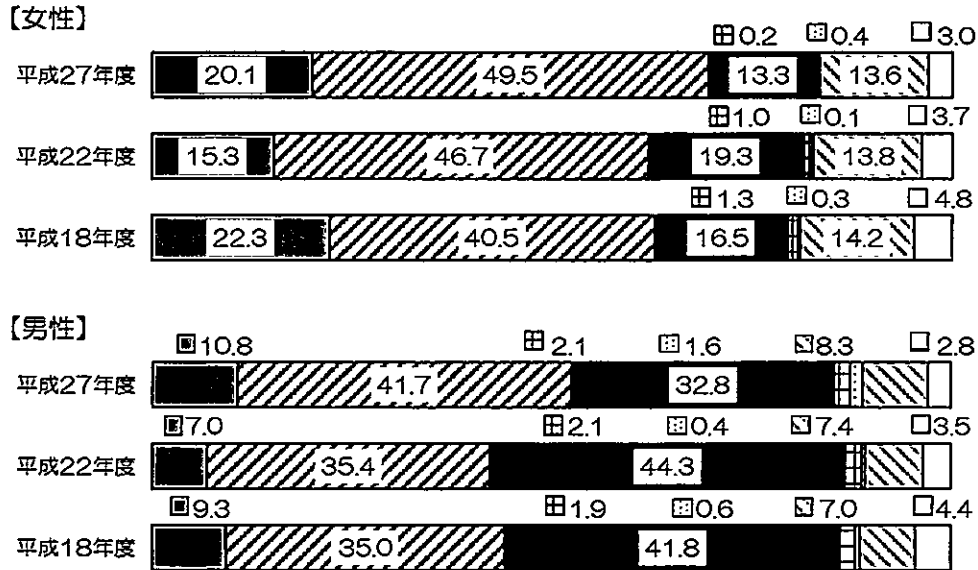
【女性】



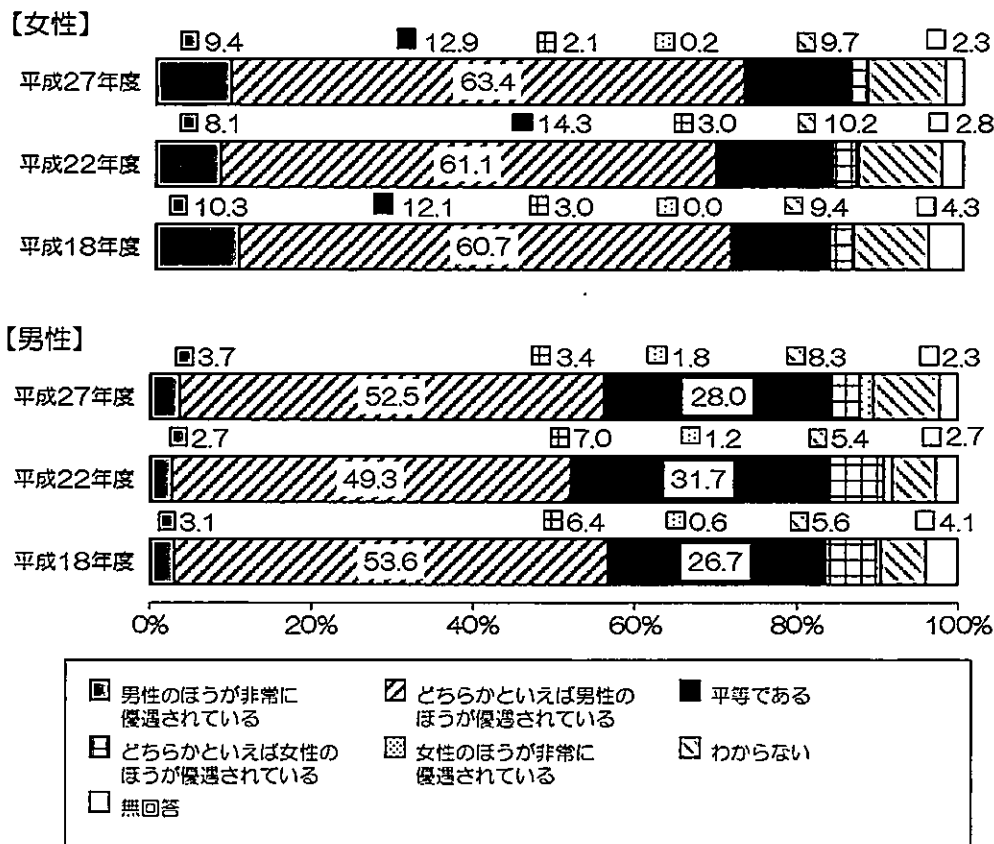
【男性】



⑦政治の場



⑧社会全体



前回調査と比較すると、男女ともに、『男性優遇』の割合が減少した項目は、「①家庭生活」、「②職場」のみとなった。逆に男女ともに増加した項目は、「⑥法律や制度」「⑦政治の場」「⑧社会全体」となっている。差が大きいものとしては、「⑦政治の場」で女性は7.6ポイント増加、男性は10.1ポイント増加している。また、平等感の割合では、「①家庭生活」、「②職場」、「③学校教育の場」、「④地域活動の場」で女性は前回調査よりも増加しており、平等感が高くなってきている。(図1-1-3)

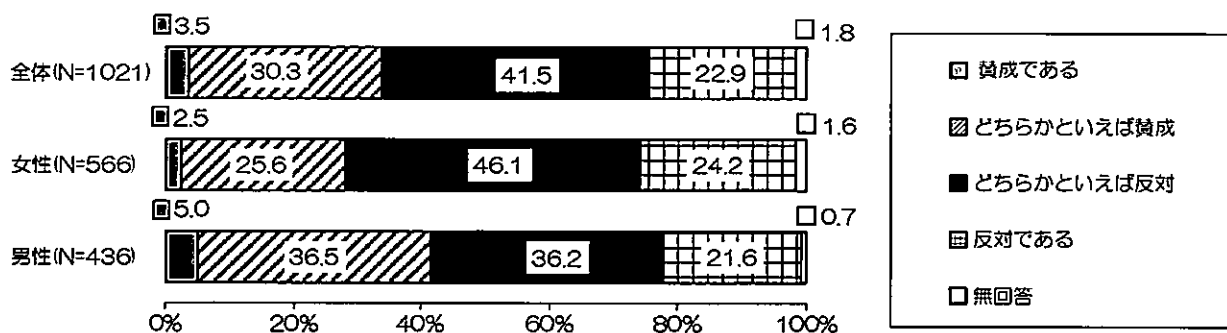
2-1 男女の決められた役割分担についての考え

問2 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。(1つだけに○印)

ポイント

- 性別役割分担について、男女ともに、『否定的な意見』が半数以上となっている。
- 女性より男性の方が、性別役割分担について、『肯定的な意見』の割合が高い。

図2-1-1 男女の決められた役割分担についての考え

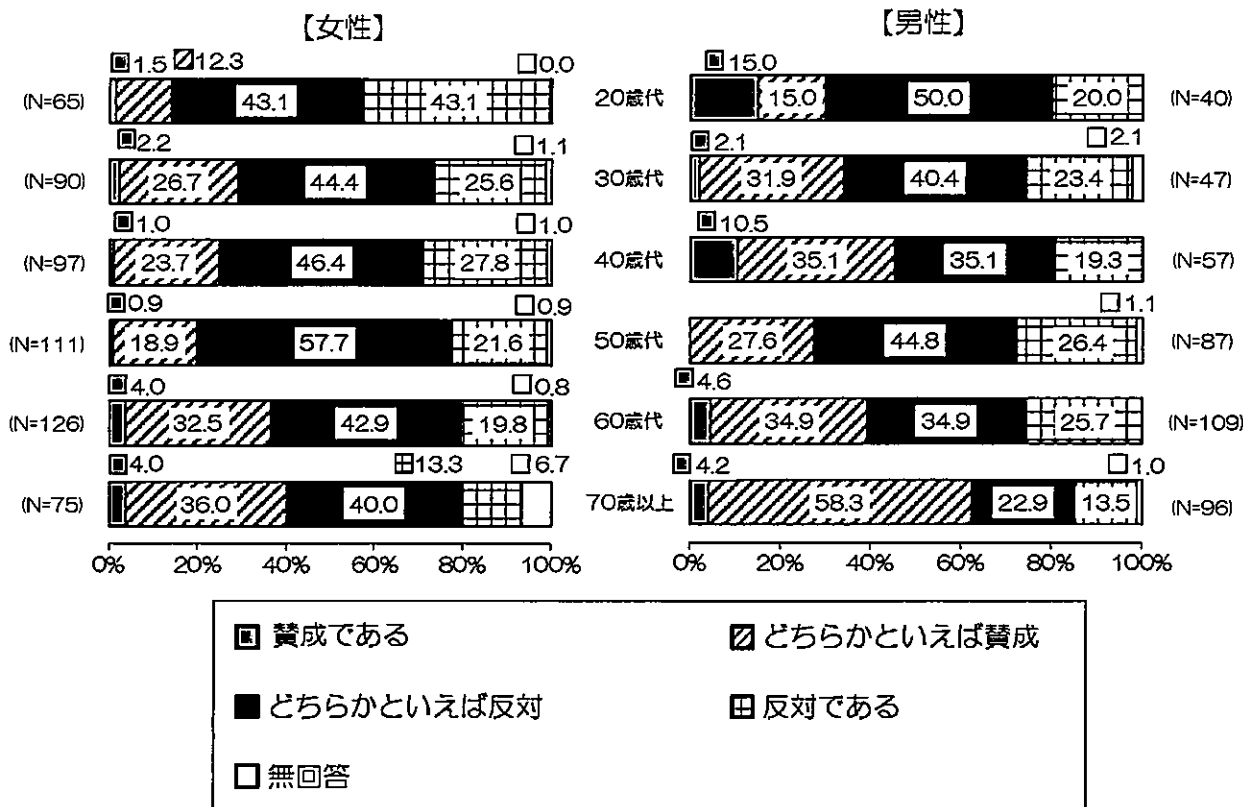


男女の決められた役割分担についての考えについて、全体では「どちらかといえば反対」という意見が41.5%、「反対である」という意見が22.9%であり、『否定的な意見』(「どちらかといえば反対」と「反対である」を合わせたもの)は64.4%と半数を超え、性別にみると、女性では「どちらかといえば反対」と「反対である」がともに男性よりも高く、女性の方がより否定的な考えであることがうかがえる。男性では、「賛成である」という意見が5.0%、「どちらかといえば賛成」という意見が36.5%であり、『肯定的な意見』(「賛成である」と「どちらかといえば賛成」を合わせたもの)は41.5%になっている。男性は『否定的な意見』が57.8%と半数以上となっているが、「どちらかといえば賛成」(36.6%)という意見の割合が最も高く、「どちらかといえば反対」(36.2%)を上回っている。(図2-1-1)

図2-1-2 性年齢別 男女の決められた役割分担についての考え

ポイント

- 性別役割分担について、女性はすべての年齢層で、『否定的な意見』が半数以上となっている。
- 女性より男性の方が、性別役割分担について、『肯定的な意見』の割合が高い。



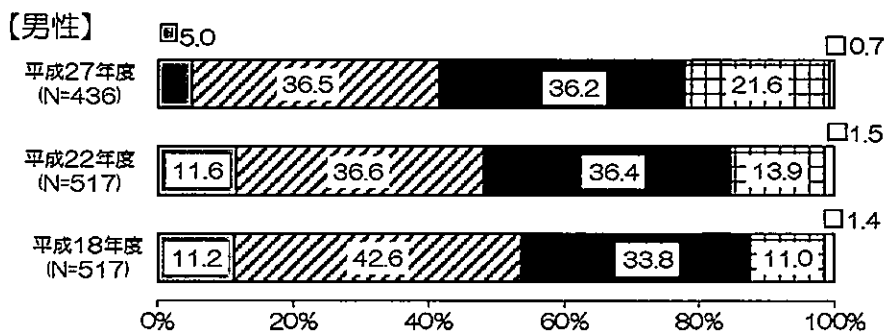
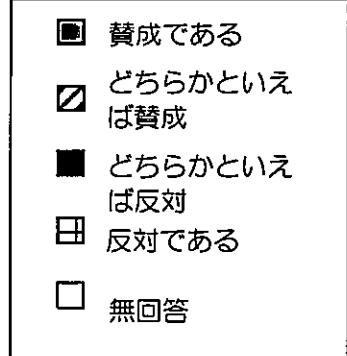
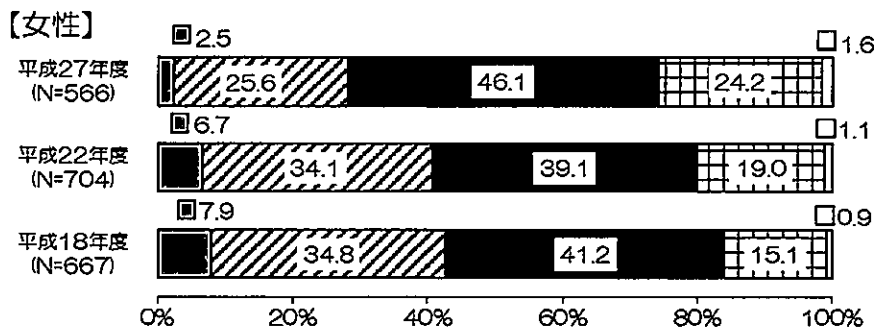
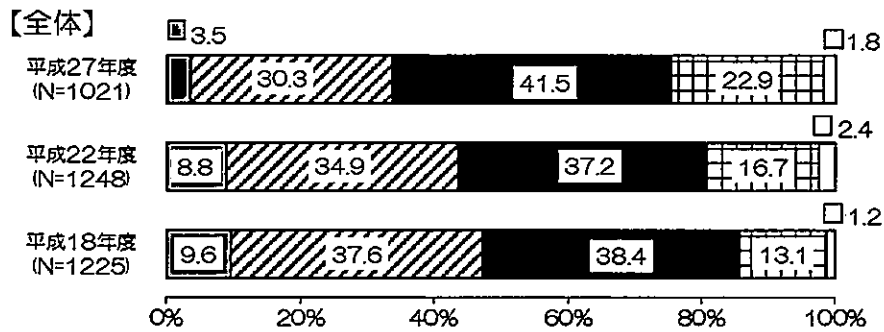
性年齢別にみると、女性で『肯定的な意見』の人は、高年齢層の方が高く、「どちらかといえば賛成」と回答した人は、70歳以上では36.0%となっている。『肯定的な意見』の人は、男性の70歳以上のみで半数以上であり、以外の年代では、男女とも半数を超えない結果となっているが、「賛成である」は前回調査を比較すると、男性の20歳代で6.1ポイント、40歳代で、2.8ポイント増加している。

『否定的な意見』の人は、女性では、すべての年代で半数以上となっており、男性では、70歳以上を除く年代で半数以上となっている。(図2-1-2)

図2-1-3 前回調査比較 男女の決められた役割分担についての考え

ポイント

- 前回調査に比べ、男女ともに『肯定的な意見』が減少し、『否定的な意見』が増加している。
- 男女ともに「反対である」という意見が増加している。



前回調査と比較すると、全体では『肯定的な意見』は、9.9ポイント減少している。男性では、『肯定的な意見』の割合が前回調査よりも6.7ポイント低くなっているが、女性でも、12.7ポイント低くなっている。

『否定的な意見』は、全体で10.5ポイント増加している。男性では7.5ポイント、女性では12.2ポイント増加しており、特に「反対である」は女性が5.2ポイントの増加に対し、男性は7.7ポイント増加している。(図2-1-3)